

令和6年度 自己評価計画書

石川県立金沢商業高等学校

No. 1

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1 新学習指導要領の趣旨を活かした授業実践に努めると共に、主体的・対話的で深い学びの実現と、資格取得に向けたスキルの習得とを両立した授業実践に取り組む。	① 国のGIGAスクール構想の実現に向け、ICTの有効的な活用法を研究し、生徒の主体的な学びの実現に向けての実践を行う。	教務課 各教科	R5年度の生徒の肯定的評価はR4年度同時期と比べ13%増の81%となった。1人1台端末を活用した授業づくりに関する校内研修等により、教員の授業改善が進んだためと考えられる。今年度は、より一層効果的な活用ができるよう学校全体で研究を進めていきたい。	【満足度指標】 生徒が授業でICTを有効的に活用することで主体的に学ぶことができている。	生徒が授業でICTを有効に活用し、主体的に学ぶことができたという生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価がC・Dの場合、授業方法及び内容を検討	前期、後期に全生徒を対象にアンケート調査
	② 生徒の知識・技能や思考力・判断力・表現力、学習への積極性を高めるための評価を工夫・実践する。	教務課 各教科	R5年度は観点別評価2年目を迎え、さまざまな観点から学習評価を行うことが計画的に行われた。R4年度同時期の評価とほぼ同程度の87%となった。今後も一層の評価材料、評価方法の蓄積を進めていく。	【努力指標】 生徒の知識・技能、思考力・判断力・表現力、学習への積極性を図るための評価方法を工夫・実践している。	生徒の知識・技能、思考力・判断力・表現力、学習への積極性を図るための評価方法を工夫・実践した教員の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価がC・Dの場合、改善策を検討	前期、後期に教職員を対象にアンケート調査
	③ 授業を中心に学校生活全般を通じて、表現する力・伝える力を向上させ、社会の即戦力として活躍できる人材を育成する。	教務課 各教科 各学年 特活指導課	R5年度の肯定的評価の割合はR4年度同時期の評価と同程度であった。今年度は、学習活動はもとより、学校行事などにも「表現する力・伝える力」を発揮できる場面を多く設定していききたい。	【満足度指標】 授業の学習活動の中で「表現する力・伝える力が向上した」と感じる生徒が増加している。	授業の学習活動の中で「表現する力・伝える力が向上した」と感じる生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価がC・Dの場合、方法及び内容を検討	前期、後期に全生徒を対象にアンケート調査
	④ 各種検定試験の取組を通して学習意欲を高める。商業科と情報交換しながら、現状把握に努め、授業・補習・課題をセットにした取組を行う。	教務課 商業科 各教科	R5年度はR4年度に比べ23人の減少であった。コロナ禍で学校生活を送ってきた学年であることから、生徒同士で学び合うことができなかつたり、時には授業に参加できなかつたりしたため、受検者数、合格者数が少ない学年となった。今年度は検定試験に向けた生徒への学習意欲を喚起するだけでなく、教科会や互見授業を通してより良い指導方法や指導内容を検討していき、全商検定1級3種目の取得者数の増加を図りたい。	【成果指標】 各学年でそれぞれの目標を持ち、資格取得の意欲が向上し、取得につながっている。	3年次の全商検定1級3種目の取得者が、 A 150人以上である B 130人以上である C 110人以上である D 110人未満である	評価がC・Dの場合、指導方法及び内容を検討	年間を通じて調査

令和6年度 自己評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
2 ビジネスマナー教育、実践教育、国際理解教育の更なる充実に取り組む。	① 相手の顔と目を見てさわやかな相手に伝わる挨拶を日常的に実践し、社会に貢献できる生徒の育成に取り組む。	生徒指導課 全学年	生徒・保護者・教職員全体でみるとR5年度は肯定的な評価は8割を超える結果であった。生徒、教職員はR4年度の同時期の評価よりも向上している。声を出して挨拶することができる環境への変化が要因と考えられる。一方で、生徒の自由記述を見ると「爽やかな挨拶をする」「大きな声で元気よく挨拶する」ことが必要との意見も多い。挨拶の質をさらに高められるよう、挨拶の大切さを常に伝え、今後とも生徒会、教職員が連携し、より良い挨拶ができる生徒に育てていく。	【満足度指標】 相手の顔と目を見てさわやかな相手に伝わる挨拶ができています。	生徒が、「相手の目を見て、さわやかな気持ちのこもった」挨拶をしていると評価する割合が、生徒、保護者、教職員のいずれにおいても、 A 85%以上である B 75%以上である C 70%以上である D 70%未満である	評価がC・Dの場合、指導方法を検討	前期、後期に全生徒、保護者、教職員を対象にアンケート調査
	② 生徒指導が主体となり、公安委員・生徒会執行部と協力しながら遅刻0の徹底を推進していく。	生徒指導課 特活指導課	R5年度の遅刻0の日は57日であり、R4年度に比べ半減している。常習的な遅刻者の改善が見られず、遅刻を繰り返していることがその原因として挙げられる。 今年度は保護者との連携をさらに密にし、生徒の規則的な生活リズムや基本的な生活習慣を向上させ、遅刻者減につなげる。また、年度当初より「時間厳守」「規則正しい生活習慣を身に付ける」等の重要性について、生徒への啓発活動を行い継続的に指導を実施する。	【成果指標】 年間を通じて遅刻をせず、始業時間を守っている。	遅刻0の日が年間を通じて、 A 130日以上である B 110日以上である C 90日以上である D 90日未満である	評価がC・Dの場合、指導方法を検討	年間を通じて調査
	③ マナー教育を含めた総合的な商業教育実践の場となっている金商デパートに積極的に取り組む。	特活指導課	R5年度はR4年度とほぼ同程度の結果となり、B評価に留まった。 R5年度は金商デパートは、制限なしの形で実施することはできたが、コロナ禍前の形を経験した生徒がいないため、学んだ知識をどのように金商デパートに生かせばよいかのかわりにくかったことが要因と考えられる。 今年度は、段階を踏んで準備する時間を確保し、生徒が生かすべき知識や技術を自覚して当日を迎えられるようにしたい。	【満足度指標】 金商デパートにおいて商業科で学んだ知識や技術を生かしている。	金商デパートにおいて、商業で学んだ知識や技術を生かせたと感じる生徒の割合が、 A 95%以上である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である	評価がC・Dの場合、運営方法を検討	金商デパート終了時に、全生徒にアンケート調査
	④ 基礎的な英語を使つての実践的なプロダクティブ・スキル（話す力・書く力）に重点を置いたコミュニケーション能力の育成に取り組む。	外国語科	スモールステップでの言語活動やパフォーマンステストを通して、プロダクティブ・スキル（話す力・書く力）の向上が見られている。 今後は、80%超を維持できるように、活動およびパフォーマンステストの内容と実施時期の検討も考慮していく。	【成果指標】 年間の様々な取り組みを通して、英語を使つて自分の考えを相手に話したり、書いたりして伝える力が向上したと生徒自身が実感できる。	生徒の自己評価アンケートで、前述の能力が「以前より向上した」と感じる生徒の割合が、 A 80%以上である B 60%以上～80%未満である C 40%以上～60%未満である D 40%未満である	評価がC・Dの場合、授業や考査のあり方・内容を検討	年度末に科としての独自アンケート調査

令和6年度 自己評価計画書

石川県立金沢商業高等学校

No. 3

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
3 生徒の希望する進路実現に向けて、各学年に応じた計画的なキャリア教育に取り組む。	① 就職希望者に対して、企業ならびに同窓生と連携を深め、各種ガイダンス機能の充実と希望企業への実践的な面接指導を実施し、進路実現を図る。	進路指導課 (就職) 3学年	R5年度は計画通りガイダンスや面接指導を実施することができ、生徒の進路実現につながった。 今年度のガイダンスにおいては、仕事をやる上での責任感等、人として大切なことについても生徒に伝えていきたい。	【成果指標】 就職希望者において、進路実現に向けて具体的な取り組みができています。	就職希望者において、ガイダンスや面接指導を通じて希望の職種・業種への進路実現を達成できたという生徒が、 A 95%以上である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である	C・Dの場合、取り組みを検討	前期、後期に、3年生就職希望の生徒を対象にアンケート調査
	② 進学希望者に対して、ガイダンスや補習を計画的に実施し、早期から志望分野・志望校への進学意識を高める。	進路指導課 (進学) 2学年 3学年	R5年度は2年生の肯定的評価はR4年度同時期と比べ10%増の79%となったものの、D評価に留まった。上位検定、評定アップの必要性について具体的な事例を踏まえ説明し、意欲の喚起を行う必要がある。 3年生については、各教科と連携しながら進学希望者（特に四大・短大）に対する個別指導を前年度以上に充実させていく。	【成果指標】 進学希望者において、長期的な視点を持って、受験勉強に取り組む、学力向上に努めている。	進学希望者において、長期的な視点を持って、受験勉強に取り組む、学力向上を向上させることができたと答えた生徒が、 A 95%以上である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である	C・Dの場合、取り組みを検討	前期、後期に、2・3年生進学希望の生徒を対象にアンケート調査
	③ 1年生に対して、進路ガイダンスや総合的な探究の時間を通じて、就職や進学についての理解を深めさせ、進路への見通しを持たせる。	進路指導課 1学年 2学年	1年生に対する進路ガイダンスの機会を充実する必要がある。また、生徒全体に説明する時間を設けるだけでなく、進路等に関する情報を発信したり、冊子等を配付したりすることで、就職や進学への関心を高めていきたい。	【成果指標】 1年生において、希望する進路に向けた具体的な進路希望を設定することができています。	進路の実現に向けて、具体的な進路希望が設定できたと答えた生徒が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	C・Dの場合、取り組みを検討	前期、後期に、1年生の生徒を対象にアンケートを調査

令和6年度 自己評価計画書

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
4 心身の健康と豊かな人間性の育成に向けて、部活動、特別活動、安全教育等の更なる充実に取り組む。特に体育的行事については生徒全体の企画運営を推進する。	① 運動部の県大会において、優勝を目指す。	特活指導課	県大会においてベスト4以上の成績を取ることができた部活動数はR5年度は7部、R元年度～R4年度は9部である。	【成果指標】 ベスト4以上の部活動が、目標を上回ることができた。	県大会でベスト4以上の運動部が、 A 9部以上である B 8部である C 7部である D 7部未満である	評価がC・Dの場合、指導を検討	大会報告書による調査
	② 文化部・商業部の県大会（総文・新人）において団体優勝が、延べ4競技以上を目指す。	特活指導課 商業科	R5年度、高文連商業部競技大会の総文及び新人において、団体優勝することができたのは、珠算、電卓、ワープロの延べ6競技であった。 情報処理、簿記については団体優勝を逃している。	【成果指標】 団体での優勝が、目標を上回ることができた。	県大会（総文及び新人）で団体優勝をする競技が、延べ、 A 5競技以上である B 4競技以上である C 3競技である D 2競技以下である	評価がC・Dの場合、指導を検討	大会報告書による調査
	③ 各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動等の充実と活性化を目指す。	特活指導課	R5年度はR4年度とほぼ同程度の結果となり、B評価に留まっているが、R5年度はコロナ禍前のように積極的に学校周辺の清掃や雪かきなどに取り組んでいる部活動もあった。 今年度は部活動や各種委員会で実施計画を立て前年度以上の取り組みを促したい。	【成果指標】 各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動に自主的に取り組めた。	各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動に自主的に取り組んだ生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価がC・Dの場合、活動内容や取り組み方を検討	前期、後期に全生徒を対象にアンケート調査
	④ 校舎内の清掃をきちんと行い、ゴミの分別をきちんと行う意識を全生徒が持ち、自主的に行動することを目指す。	保健環境課	清掃は概ね良好に実施されている。今年度は教室棟のワックスがけも行い、さらなる美化意識を高めていきたい。 ゴミの分別については良好である。今年度もゴミ分別意識の向上について啓発していきたい。	【成果指標】 美化委員及びトイレの清掃係を中心に清潔な環境の維持に努め、ゴミ分別の意識を高めることができた。	清掃をきちんと行い、ゴミの分別をしつかりできる生徒の割合が、 A 98%以上である B 95%以上である C 90%以上である D 90%未満である	評価がC・Dの場合、指導を検討	前期、後期に全生徒を対象にアンケート調査
	⑤ 「石川県いじめ防止基本方針」に則り、いじめを起さない学校づくりに努める。	全教職員	いじめの未然防止の取組は、生徒が安心して学校生活を送るための基盤である。今後とも肯定的評価が100%となるよう、教職員の意識・行動を高めていく。	【努力指標】 いじめの未然防止に向け、校内巡視や情報の交換・共有を意識的にを行っている。	いじめの未然防止に向け、意識的に行動をしている教員の割合が、 A 100%である B 95%以上である C 85%以上である D 85%未満である	評価がC・Dの場合、啓発活動などの改善策を実施	前期、後期に全教職員を対象にアンケート調査
	⑥ 生徒の安全確保を図るため、実践的な安全教育を推進する。	総務課 全学年	避難経路及び避難場所を各教室に掲示しているが、避難経路について理解していない生徒もいる。 避難訓練の際はクラス全体での避難であるためスムーズに行動できているが、個人ごとの避難であってもスムーズに行動できるよう、防災に対する意識をさらに高めていく。	【成果指標】 非常災害発生時の避難経路と避難場所を理解し、避難訓練に参加できている。	避難経路と避難場所を理解し、避難訓練に参加している生徒の割合が、 A 100%である B 95%以上である C 85%以上である D 85%未満である	評価がC・Dの場合、啓発活動などの改善策を実施	年度末に全生徒を対象にアンケート調査

令和6年度 自己評価計画書

石川県立金沢商業高等学校

No. 5

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
5 開かれた学校づくりに向けて、教育活動の成果の積極的な発信に取り組む。	学校行事や特色ある教育活動等について、生徒・保護者・地域から求められる情報を、ホームページ、広報誌やPTA活動等を通じて発信する。	総務課 各学年	本校の教育活動や生徒状況等について定期的に情報を発信しているが、タイムリーな情報発信がまだまだ不十分である。 今年度は各分掌やPTAとも協力し合いながらタイムリーな情報発信や会報の発行に努めていく。	【成果指標】 本校の教育活動や生徒状況等の理解に役立つ最新の情報を提供する。	「配付物やホームページ等による情報が、教育活動の理解や生徒状況の把握に役立つ」と評価した保護者の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	評価がC・Dの場合、取り組みの方法を検討	前期、後期に保護者を対象にアンケート調査
6 教職員の多忙化改善に向けて、業務内容の精選と遂行方法の改善に取り組む。	働き方改革の趣旨に則り、業務改善に努め、教職員の時間外勤務時間の短縮に繋げる。	全教職員	時間外勤務時間80時間超えの主な要因は、部活動指導、金商デパート準備、修学旅行引率などの行事・業務に伴うものである。特に部活動については土日に宿泊を伴う上位大会が県外で行われることが多く、業務過多となっている。 業務の平準化に努め、削減できる業務がないかについても見直しをかけていく。また、部活動休業日には定時退庁するという雰囲気づくりにも努めていく。	【成果指標】 1月当たりの平均時間外勤務時間が80時間を超える教職員数の削減ができた。	年間の時間外勤務時間が、平均して月80時間を超える教職員の数が、年間で、 A 0人である B 1～3人である C 4～6人である D 7人以上である	評価がA以外の場合、対策を検討	毎月の時間外勤務時間記録の集計結果